

1 説明的文章(1) — 指示する語句・接続する語句

◆指導ページ P.2～5◆

【指導のポイント】

文章中における指示語と接続語について学習する。通常、説明的文章では既知の事例から推論される事柄を主張する。その際、指示語と接続語を用いて、事例と主張をつなぎ合わせ文章にしていく。要約指示語の内容を読み取ること、接続語の役割を理解することを目指す。文章読解の基本であり、論説文や抽象度の高い文章には頻出する。指示語・接続語に注目し、論旨を捉えることを目標とする。

例題の板書例

■筆者の主張

生物の世界にはさまざまな変わり者がみられる。異常とも思われる環境で生きるものもある。

コウボウムギの例

・生息地

潮風のふく、強い日差しの照りつける砂浜

(日本全域、台湾、中国)

・生態特性

地下茎 ↓ 砂浜でも10センチも掘れば、水分をおび、表面よりずっと冷たい

葉からの蒸散 ↓ 気化熱でからだの温度が上がらないようにしている

厚くて革質の葉 ↓ 乾燥や塩分に耐える

地上部 ↓ 飛砂を自らに堆積させる。地表面からの距離ができて地下部を

保護できる(砂防植物)

■筆者の主張(まとめ)

背丈の低いコウボウムギは、他の植物と光を求めて競争しても、勝ち目はない

異常とも思われる環境に適応した生活の方法や形態を獲得

(乾燥・高温・塩分への耐性をつける)

他の植物の寄りつかない砂浜を独壇場にできる

重要語句

○独壇場⇨その人だけが思うままに振る舞うことができる場所や場面。

演習問題の板書例

■筆者の主張

事実なのか、推測や意見なのかを明確にしそれらを混同しない文を心がけるべきである。

■事例

〈小説〉

嘘(フィクション)だと明言している

事実であるかどうかは読者の意識にのぼってこない

〈新聞記事〉

・文章の具体性・平明さ・正確さ

先入観にとらわれず自分の目でしっかり見る

① 数字と固有名詞

② 辞典・年表・その他資料 ↓ 孫引きによる失敗の防止

・事実と意見のそれぞれの書き方

(事実)

その事実は自分の体験であるか、人から伝え聞いたことかもしくは、だれかの考えの引用なのかをはっきりする

(意見)

自分自身の考えか、だれかの考えなのか明確にする。(推定・評価・説・主張)

これらの表現態度をあいまいにすると

論が成り立たなくなる

オリジナリティーが消滅する

悪文

重要語句

○推敲⇨文章を練ること。

2 説明的文章(2) — 段落の要点・段落相互の関係

◆指導ページ P.6～9◆

【指導のポイント】

文章は「事実・例示」、「考察」、「問い」、「結論」などから構成されている。筆者はそれを段落ごとに構成し、論旨を展開している。接続語や内容をもとに、各段落の関係を理解していくことは、筆者の主張を理解する正攻法である。ここでは、文章を構成する段落のもつ役割を考えながら、文章を理解することを目標にする。

例題の板書例

■筆者の主張

敬語を用いるなど、形式を整えるとそれが内容の確かさの証明にさえる。

■宗教観

〈神道〉(日本)

人間世界の善悪の判断は関係がなく、形式に従って祈れば願いはかなう

⇔ 敬語の誕生

〈一神教〉(外国)

神の戒律を人間が遵守してはじめて信者と認められる

・日本人の美德

- ① 接待 ↓ 一流の料亭・典型的な和食・伝統芸能の鑑賞・高価な土産
- ② 宴会や儀式・会議などでのスピーチ ↓ 席が改まるほど、紋切り型の形式になる
- ③ 会社の上司 ↓ 仕事内容よりも言葉づかいを叱ることも多い

■筆者の主張(まとめ)

敬語への傾倒

×形式的にすれば、創意工夫の手間が省ける(エネルギーの節約)

上位者に対しては、形式を損なってはならない

形式を整えると、相手に高い敬意を表したことになる

どんなに人間性が善良でも、ぶっきらぼうな人は信用されない。形式を整え、形式に意を用いることが内容の確かさを証明すると考えられている

重要語句

○指南⇨教え導くこと。

演習問題の板書例

■テーマ

森林ボランティアの活動の多様性について

■事例

〈放置された森林〉

・放置された人工林

木々が混み合い、林内が暗い

- ① 木々自体の生育を妨げる
- ② 森林の下層植生の貧困化 ↓ 生物の暮らせる森の減少
- ③ 表土の流失を招く ↓ 森だけでなく河川の生態系も破壊する

← 対応策

- ・間伐
- ・枝打ち
- ・苗木のために必要に応じて、草刈り
- ・植生に応じて、優良な樹を造林

・里山天然林

人家近くで生活に利用されていた森林の放置

(薪・柴・牛馬の餌・堆肥)

↓ 木々が混み合い、林内が暗い

生態系が乱れて、植物種や小動物が減少している

〈現状行われている活動内容〉

- ① スギやヒノキ、カラマツを生産 (人工林としての側面)
 - ② 炭焼きや山菜・茸の採集 (天然林としての側面)
- 〈その他森林の持つ特性〉

- ① 登山や散策 (いやしの場所)
- ② 空気中の炭素の固定化
- ③ 河川の水質の上昇 (沿岸漁場の維持)
- ④ 森の保水機能
- ⑤ 多様な動植物が共生している

■まとめ

人と森林とのかかわり方が多様で、森林自体も多様な側面をもつため、森林ボランティアも多種多様である。

3

説明的文章(3)——事実と意見

◆指導ページ P.10～13◆

【指導のポイント】

説明的文章では、何か事実や事例を提示し、そこから推論して一般論を展開する。このような文章を読む際には、事実・事例とそこから導く推論を区別して論理の展開を理解する必要がある。ここでは、例示と筆者の主張を的確に捉えることに重点を置く。またその例示がどのようにして、筆者の主張を支えているのかをつかみ、その主張を正確に理解することを目標にする。

例題の板書例

重要語句

○叙述Ⅱ物事について順を追って述べること。

■論旨

喃語であっても検証可能な情報を伝えるだけでなく、対象についての感情や評価・態度をも表している。

■事例

〈九カ月の過ぎの幼児〉
外界の事物が客観性をもって認められだす
(おもちゃに布をかける実験)

■喃語の叙述的機能

外界の事物を意味づけし、それにかかわる情報を他者に伝えようとする

■信号の発し手(自分自身)

外界の第三の事物
信号を送る対象の相手

■喃語の別の機能

喃語(↓音の指し示す対象との対応は恣意的で、子供が日常的に関係のある限られた人数のおとなに理解されればこと足りる(筆者の二男の例))
いたずらをして父親にこっぴどくしかられた子ども
中立的関係のときはトーンが異なるだろう
(対象についての発信者の感情・評価・態度が表れる)

■情動的機能の側面

■まとめ

喃語は検証可能な情報を伝えるという叙述的機能の側面だけでなく、対象についての感情や評価・態度をも表す情動的機能の側面も備えている。

演習問題の板書例

重要語句

○効用Ⅱ財やサービスが消費者の欲望を満足させる度合。

■論旨

読書の効用は漠然としており、何ものかの実現あるいは達成であるが、それを得るまでには時間がかかるものである。試行錯誤しながら読書法を探し、自分にあったものを見つけるとよい。その効用を見つけるとよい。その効用を実感するところには自然と読書の楽しさも実感しているだろう。

■話の展開

・読書とは決まった方法がない
偶然その本にめぐりあった。
偶然が人間の感情やら言語の好みや思考法を形づくる
偶然の恩恵

・読書法の例

〈読み方〉
① 速読
② ゆっくり精読
③ 手当たりしだいに乱読
④ 気に入った作者の全集や全著作を読む
⑤ 一冊のうちの面白いと感じるところだけをつまんで読む

〈読む姿勢〉
① 机に向かって
② ロッキング・チェアにゆられて
③ 畳の上に寝そべて

〈読む場所〉
① 家 ② 図書館 ③ 駅のベンチ

・読書法の探し方

世間の読書法は参考にしつつも、自分自身の取り組みやすい方法を試し、ときには読み進めている本自体を一旦、かえてみるとよい。

■まとめ

試行錯誤しながら読書法を探し、自分にあったものを見つけるとよい。その効用を実感するところには自然と読書の楽しさも実感しているだろう。

4

説明的文章(4)——要旨・論旨

◆指導ページ P.14～17◆

【指導のポイント】

説明的文章では論旨つまり、文章の話題を把握することが重要である。ときにそれは、決まった表現などから筆者の主張したいことを捉えることができる。ここでは、そのような言い回しから筆者の主張を見つけることを学習する。これにより、結論や筆者の最も伝えたい事柄を捉えることを目標にする。

例題の板書例

■論旨

今あるがままの自分を受け入れ、そのうえで、よりよく生きようとする。

■展開

〈知足〉

・欲望を抑えるだけでなく自分の外側にあるものに振りまわされないようにする

外なる価値を求めすぎると、自分が自分の主人でなくなってしまう

生きていくのに必要な分でストップをかける

人生をコントロールする力を手に入れる

(知足者富)

足るということを知る

〈向上心と努力〉

(強行者有志)

強めて行う者は志あり。自分を励まし、志をもって努力を続けよ

・足るを知る

今の自分にできる努力を正しい方向に積み重ねていける

・足るを知らない

身の丈に合わない高望みをする

■まとめ

知足つまり、自分ももっているものに満足し、自分を肯定できることが前提として必要であり、さらに向上心もち、努力を積み重ねることが重要である。

演習問題の板書例

■論旨

川の環境を人と同じ感覚で整備するのは勝手であり、そこに生活する水生生物をよく理解しなければならぬ。

■事例

〈環境教育活動での川の清掃活動〉

・川の中の人が捨てたゴミを取り除く(○)

・川の中にたまっている落ち葉を除去(×)

川の中の落ち葉はトビケラなどの水生昆虫の餌であり、食物連鎖を通して魚の生活も支えている

・石の汚れをブラシで洗い落とす(×)

汚れ⇨附着藻類

カゲロウなどの水生昆虫の餌であり、川の生態系の食物連鎖において重要なもの

■展開

〈人の生活空間の特異性〉

・昔の人は、排泄物を住居の近くに捨てていた

(中世ヨーロッパ)

都市での排泄物・汚水の垂れ流し

ペストなどの疫病の流行

汚水対策

下水道の発達

・地球外生物が日本人の生活を見たら

冷蔵庫を置いておけば、汚物で汚さずに生き続ける奇妙な生物

(人には必然の社会基盤システムの存在を特異がために、地球外生物は気がつかない)

■まとめ

川の環境を人と同じ感覚で整備するのは勝手である。人もかつては衛生環境の整備されていない生活を送っていた。さまざまな社会基盤が整備された今では必然に感じられるが、それ自体は特異なことでもある。川の中に生活する水生生物も同様であることをよく理解し、真に必要な整備を考えるべきである。

【指導のポイント】

小説文では人物の感じたこと考えたことを読み込んでいくことが必要である。それは直接的な情動の描写もあれば、何らかの情景の描写でそれを示唆していることもあり、多くの場合後者を読み取っていくことが重要である。ここでは情景の描写として間接的な表現と登場人物の心情との関わりを捉え、登場人物の心情とその理由を読み取ることを目標にする。描写の特徴に注意しながら読んでいく。

例題の板書例

■場面

あと二時間半で汽車が出て、主人公(謙吾)は故郷の高知を離れる。濱多と善岡と謙吾の三人は食堂で朝食を食べているところ。

■情景描写

〈食事の様子〉

二人(濱多と善岡)ともどんぶりを空にしている

↓再会はいつかはわからないのに、のん気になっている

(謙吾は落胆気味)

〈濱多〉

好物のあじの干物に手をつけていない

〈善岡〉

どんぶりを空にして以来、お代わりを口にしない

やはり離れ離れになることを気にしている

← 二人が自分と同じ思いを抱いてくれている

〈ミカン水で乾杯〉

三個のコップはぶつかり合ったが、乾いた音は立たなかった

← 三人ともがしつかりコップを握り締めていた

(あふれ出そうな感情をこらえ、力んでいる)

← 三人とも別れを惜しんでいる

女主人はその光景を、微笑を浮かべて見守っていた

(別れは惜しいものだが、その中で成長していくもの)

重要語句

○ 饞別＝遠方へと旅立つ人や転任する人などへ別れのしるしとして、金品を送ること。

演習問題の板書例

■場面

夜間の練習に打ち込む亮平と有田の休憩中のやり取り。亮平は知樹の代役としての大役を背負いつらい練習に明け暮れている。

■情景

〈練習中〉

(金子トレーナー)

「おまえ、知樹の代わりに大会出ること、引き受けたんだよな。……」

〈亮平〉

無言のままグローブを構え、軽くステップを踏んだ

(覚悟を決め、意気込みを見せている)

〈休憩中〉

〈亮平〉

「天罰だな。俺にばかり、押しつけるから」

〈有田〉

「ちよつと待てよ。押しつけたなんて言うなよ……」

(真剣な表情)

← 亮平が知樹の代役を引き受けたことを気にしている

〈夜空〉

狭い駐車場の敷地から見上げる……かき消していた

← 夜間練習に打ち込むジムからもれ出す明かりは星の光を打ち消すほど強い光を放っている(亮平の揺らぎない強い意志)

小説文(2) — 主題

◆指導ページ P.22 ~ 25 ◆

【指導のポイント】

小説文では人物の感じたこと考えたことを読み込んでいくことが必要であり、引き続きその習得を目指す。ここでは小説文の主題が読み取れる表現を見つけ、またそのような表現のうち人物の心情の中心になっているものを捉えることを目標とする。主題が読み取れる表現から作者が表そうとする中心の思いを捉える。

例題の板書例

■場面

身勝手な母、キエコについて主人公(僕)が姉と話している

■やり取りの描写

〈犬のシロをペットショップでシャンプーしてもらったこと〉

(僕)

トリミングに行くことに対し、シロも付添いする自分たちも場違いで恥ずかしく感じている

キエコはそれを聞き入れず強行

真っ白なシロ

↓ 心の中では僕はキエコに感謝した

(誇らしげなシロを見て、母の行動が間違いではなかったことに思い至る)

キエコの一部を肯定している

〈主人公と姉の対話〉

(僕)

心が、しんとした

姉が彼女を容認した理由を推し測ることができた

キエコの行為が周りにもたらす迷惑は許し難い。しかし彼女は母であることには違いはなく、それは双方に責任として生じる関係である

僕の少年時代が終わりを迎えている

ビターな成熟を求められる

(キエコを拒む気持ちと受け入れる必要性に折り合いをつけることを求められている)

重要語句

○ビター=苦いさま。

演習問題の板書例

■場面

店主のアーマイさんの手作りの飛行船を思いに下げ、三十年ぶりに彼の喫茶店を訪れた。

■情景描写

きつと極夜に入って座れば、小学四年生の自分に出会えるだろう

(時とともに止まり、置き去りにしてきたものに再会できる期待)

〈入店〉

俊雄は大きく息を吸って吐き出した。深呼吸とも吐息ともつかない呼吸だった

↓ 緊張が解けた。期待して落胆することは避けられた。安堵

〈白夜号・極夜号との再会〉

・約束したときの「予約済」の紙が貼られている

・「……死んだ父から、……この店が続くかぎり、絶対にそのまま店に置いておくようにといわれたんです。……本当によくきてくれました」

←

三十年前の約束は果たされた

(満面の笑みでその飛行船を覗き込んだ)

随筆文 — 主題

◆指導ページ P.26 ~ 29◆

【指導のポイント】

随筆文は筆者の実体験をもとに書かれている。出来事の描写は、筆者の目に映るものをもとに描かれるため、「～のようだ」、「～みたいだ」といった比喩の表現が多くなる。ここでは全体のテーマの背景を捉え、そのような特徴的な表現に注目し文章の構成を読み込むことを目標とする。最終段落に注目して、随筆文の主題を捉える。

例題の板書例

話の舞台・テーマ
「グリーンボックス」という自然と文化の境界を取りはずして仕事をすることをコンセプトに掲げる団体で、考えたこと。

■展開
〈一九九四年暮れの会〉
「自然と芸術・動物たちの創造の不思議」
蒲谷さん
(野鳥の鳴き声を録音・記録している)

感化 ←

鳥田さん
(団体のピアノ奏者)
← 四種の鳥の鳴き声に基づき作曲

筆者
この曲を鳥たちに聞かせたらどのような反応が得られるだろう？

〈予想〉
鳥田さん | 鳴き声 | 情動により ↓ 音楽に変換
鳥 | コミュニケーションそのものとして ↓ 鳴き声

伝える情動は共通するため、鳥たちにも反応があるはず

筆者の文章による表現
人が言葉を習得することはごく自然なような気がする

人に特殊なことではなく、生物に組み込まれた自然の発露

← 同様にして

表現の衝動も生物に組み込まれたものではないか？
(根拠↓恋愛期間(生物的なこと)に詩を書きだす)

鳥の言葉と人の言葉は重なる部分があるようだ

重要語句
○発露⇨心の中にあるものや隠していたことが表に現れ出ること。

■テーマ
読書の重要性について

■展開
〈筆者自身〉
活字中毒：読書を習慣化して器用に続けているが、その行為を必要に応じて変えることができる不器用なところがある

〈情報インフラのない昔〉
時間を潰すために読書をする

← 「教養を得るため」という目的ではない
(素直な実直な目的意識)

← 「娯楽」と「教養の獲得」が理屈抜きに一致
(文化社会の理想形)

〈活字文化の圧迫〉
ヒトが文明をもちえた要因

① 火の支配 ↓ 科学の芽生え
② 言葉の所有 ↓ 芸術の始原

科学の発達が時間に追われる現代社会を創出

← 読書習慣、活字文化の圧迫

← 知性のともなわれない科学の所有は危機である

読書はヒトが文明化社会を営む上で重要である

演習問題の板書例

○有為転変⇨この世のすべての存在や現象は、さまざまな原因や条件によって常に移り変わるものであり、少しの間もとどまっていないうこと。

重要語句

読書はヒトが文明化社会を営む上で重要である

【指導のポイント】

古典とくに、古文について学習する。古文は日本語に他ならないが、文法や仮名遣いが現代の日本語と異なりそれを理解して読む必要がある。ここでは、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの対応を理解し、現代語との違いに注意しながら古語の意味を考える。また会話文を正しく読み取り内容を正しく理解することもあわせて目標とする。

例題の板書例

■教訓

物事は急所を乗り越えて緊張が解けたときに、失敗するものである。

■本文

・文法事項

「あやしき」 ↓ 「いやしい」

古文中

「その事に候。……仕る事に候」は会話文

・内容

木登りの名人として名高い男は、高い木に登らせて枝を切らせる際に、降りるとき、家の軒程度の高さになったところで注意するように声をかけていた。これは危険と意識するところでは気が行き届いているが、それに比較して安全なところに来ると気が緩み、そのときこそ失敗が起きるものだからとのことだ。これは聖人の教えにも同じである。蹴鞠にしても難しい球を拾って緊張が解けて安心したときに、球を落としてしまうものらしい。

演習問題の板書例

1

■テーマ

種々の笛の中でも横笛が一番である

■本文

・文法事項

いみじう ↓ いみじゅう やうやう ↓ ようよう

笙 ↓ しやう めでたし ↓ すばらしい 調子 ↓ ちょうし

内容 にくき ↓ いやなものだ

〈横笛〉

・遠くから近づいてくるとき、遠くに遠ざかっていくときの両方で、聞いていておもしろい

・ふとところにすつと入り、目立たない

・聞き覚えのある調子で吹くのはすばらしい

〈笙の笛〉

・月の明るいときに、車などの中で聞くのは趣がある

・ぎょうぎょうしく扱いにくく見える

〈ひちりき〉

・くつわ虫のようにやかましい

・へたな場合はひどくいやだ

祭りで横笛の音色に浸るうちに、そこにひちりきが吹き重なるのはすばらしいこれに合わせて歩みでてくるのはおもしろい

2

■テーマ

賀茂神社に熱心に参詣する式部大輔の実重の話

■本文

・文法事項

夢則ち覚めぬとぞ。 ↓ 夢則ち覚めぬとぞいひける

(夢はそこでたちまち覚めたということだ)

・内容

式部大輔の実重は身に余るほどのご利益は得られていなかったが、熱心に賀茂神社に参詣していた。ある人の夢で、実重を見た大明神が気の毒に嘆いていた。実重が大明神の御本体を拝みたいと御祈りに行った際に、天皇の御一行に遭遇した。一行の持つ経文の表題に「ひとたび南無仏と称せば、皆すでに仏道を成せり」とあった。参詣を熱心にしても同じことだ。夢はそこで覚めた。

【指導のポイント】

古文と漢文および漢詩について学習する。古文については敬語を表す古語とその意味をつかむことを重点的に行う。また会話文を正しく読み取り内容を正しく理解することもあわせて目標とする。漢文および漢詩については送り点と送り仮名を理解し、漢詩についてはさらに、特色や表現を整理し内容をつかむことを目標とする。

例題の板書例

<p>■内容</p> <p>床の前まで差し込んだ月光に辺りが美しく照らされる。はるかに山の上の月を望み、頭を低れては故郷を思う。</p>	<p>I</p> <p>■内容</p> <p>伊与守源頼義朝臣は、安倍貞任、宗任らを攻めるうちに十二年の歳月が過ぎた。貞任らのたてこもる衣河の館に攻め入り、ついに追いつめた。城の後ろから敗走したのを呼び止めると、「衣のたてはほころびにけり」と言った。すると貞任は「年を経し糸のみだれのくるしさに」と答えた。時を経た糸のように長い年月の中で軍勢や組織や統率が乱れて、その苦しさに衣河の館は破られた。このように戦いの中でも優雅に歌を詠んだ。</p> <p>II</p> <p>■構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 五字で四行からなる ↓ 五言絶句 ・ 転句と結句の返り点が同じ ↓ 対句
--	---

演習問題の板書例

<p>1</p> <p>■テーマ</p> <p>たとえ援助が大きくても、必要なときに行われなければ意味がない。</p> <p>■本文</p> <p>・ 文法事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 莊子といふ人ありけり ↓ 莊子という人がいた 奉らむ ↓ 差し上げましょう <p>(文脈に応じて、意味や敬語の種類が変わる)</p> <p>・ 内容</p> <p>莊子が食料を乞いに監河侯のもとに行った。河侯は莊子に粟を差し上げることは恐れ多いことであり、五日後に千両の金を差し出そうとした。莊子は昨日、水神の使いで移動中に溝に落ちた鮒の話をした。莊子は数日後にその目的地に行くので連れていくことを提案したが、その鮒は一刻も早く渴きを潤す堤一杯の水を乞うた。それと同様に莊子も後の千金よりも今日の命をつなぐ食料を乞うた。</p> <p>「後の千金」</p>	<p>2</p> <p>■テーマ</p> <p>蘇代は巧みな弁で、趙の燕への侵略を止めさせた。</p> <p>■本文</p> <p>・ 内容</p> <p>どぶ貝とシギが争っているうちに、漁師と一緒にとらえられたことを引き合いにしている</p> <p>趙 — 伐つ — 燕</p> <p>(軍事の負担で大衆を疲れさせる ↓ 国力が落ちる)</p> <p>← 強国の秦に趙・燕ともども侵略される</p> <p>漁夫の利</p> <p>蘇代は趙の恵王に、燕を打つことを止めるように進言し、王は了承した</p>
--	--

詩歌

◆指導ページ P.38～41◆

【指導のポイント】

詩歌を読むための基本的事項を整理する。ここでは、詩、短歌や俳句の形式や特色を理解し、表現技法の特徴を捉える。またそれらの基礎事項を念頭に具体的に詩歌に触れることも行う。その中で、それら表現技法が詩歌にもたらす効果を読み取ることを目標とする。入試などで問われることは少ないが、国語の基礎素養として身につけたい。

例題の板書例

<p>H ・茶摘 ↓ 春 ・切れ字 ↓ ぞ</p>	<p>G ・桜 ↓ 春 ・切れ字 ↓ かな</p>	<p>F ・菜の花 ↓ 春 ・切れ字 ↓ や</p>	<p>E ・風 ↓ 冬 ・切れ字 ↓ けり</p>	<p>D ・月の出 ↓ 体言止め</p>	<p>C ・二句切れ ・ひとつ螢は……何をもとむる ↓ 倒置法 枕詞 ↓ ひさかたの</p>	<p>B ・ひとつ螢は……何をもとむる ↓ 倒置法</p>	<p>A 〈形式・表現技法〉 ・昔の書き言葉 ↓ 文語定型詩 ・1および2は名詞で終えている ↓ 体言止め ・2と3は小、花、顔が重なる ↓ 対句法 ・5から8は花、小、のためならば、をいかにせむが重なる ↓ 対句法 〈内容〉 小蜘蛛が花を「見守る」ような顔、小蝶が花に「酔う」ような顔で向き合っている。花が女性、小蜘蛛と小蝶が男性を表している。女性が落ちていく先にひとりの男性はついていくが、もうひとりの男性は軽妙に去っていく。</p>
-----------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------	--	-----------------------------------	---

演習問題の板書例

<p>C ・腸氷る ↓ 比喻 ・季語 ↓ 氷る</p>	<p>B ・切れ字 ↓ や ・季語 ↓ 蟬の声</p>	<p>A ・切れ字 ↓ ゆかし ・季語 ↓ すみれ草</p>	<p>3 ・岩にしみ入る蟬の声 ↓ 比喻</p>	<p>E ・初句切れ</p>	<p>D ・四句切れ ・倒置法(↑夕日の岡に……銀杏ちるなり)</p>	<p>C ・二句切れ ・体言止め(↑しらなみ)</p>	<p>B ・三句切れ ・倒置法(人目も草もかれぬと思へば……冬ぞさびしさまさりける)</p>	<p>A ・草枕 ↓ 枕詞</p>	<p>2 ・七五調がところどころに見られる ・反復法(↑26と27)</p>	<p>1 リズムや調子に決まりはない ↓ 口語自由詩 擬人法 ・高雅にやせたかけら ・かけらにもすることがあった ・若い気鋭のかけらたち ・へんに倫理的な浪や風 構成</p>
-------------------------------------	-------------------------------------	--	------------------------------	--------------------	---	-------------------------------------	--	-----------------------	--	---

【指導のポイント】

国語表現全般的な事項として、文章表現について整理する。文法的に正しい文、伝えたい意図が明確に表現できる文を書くことを学ぶ。また文章の構成についても学習し、それらを用いて明瞭な文章を書けるようにすることを目標とする。さらに、テーマに応じて意見文を書くことも行う。

演習問題の板書例

<p>3 構成</p> <p>双括型(最初と最後に主張を述べる) ↓ほとんどの意見文(主張が明確になる)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 立場を決める ② 経験的な理由1 ③ 経験的な理由2 ④ 経験的な理由3 + 立場の繰り返し <p>(*) 経験から洞察し、より一般性の高い考察を理由とすることも多い</p>	<p>1</p> <p>駐輪場の使用について困っていること</p> <p>・「登校時間に混雑している」: 82% ↑ ↓ 「下校時間」: 39%</p> <p>登校時間が早いときは混雑していないが、午前8時を過ぎると一気に混雑する 混み合っていて、自転車や体がとなりとぶつかりそうになる</p> <p>← 駐輪場をいくつか増やしてほしい</p>
<p>4 構成</p> <p>双括型(最初と最後に主張を述べる)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 立場を決める ② 一般性の高い根拠を述べる ③ それを支える経験的な理由 ④ まとめとして、その根拠から主張を再度繰り返す <p>例</p> <p>〈町の図書館・資料館〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ② 出版物は信憑性が高い ③ 公的な資料は信用してよい <p>〈町の住民に話を聞く〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ② 資料にないこともわかる ③ 伝承による内容は聞き込みでしか得られない <p>〈町についてインターネットで調べる〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ② ネットでは膨大な情報に即時に触れられる ③ 掲示板ではリアルタイムで意見が交換されている 	